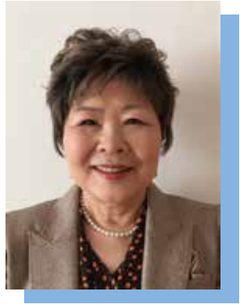
（社会福祉法人）
聴覚障害児の会
設立準備会だより

聴覚障害児の会設立準備会事務局　〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-33-22-203
TEL.03-5980-8420　FAX.03-3918-4472
URL http://roujishien.com

閉園を受けて、新しい施設の設立に向かう

― 何故必要か ―



設立準備会事務局長 濱崎久美子
（東京愛育苑金町学園長）

金町学園の閉園が平成３０年３月３１日に決まりました。東京愛育苑は、従前より金町学園の事業廃止を計画しており、引き継いで運営してくれる法人への事業譲渡を進めておりました。その譲渡の話は２７年６月に白紙になりましたが、東京愛育苑は、計画通り閉園すると決めたものです。

閉園で、生活場所の変更や転校等の悪い影響を受けるのは、現在入園中、これからも入園を必要とする子どもたちです。入園を必要とする子どもは、将来も必ずおりますので、在園の子どもたちだけの問題ではありません。

運営を担っている園長はじめ職員は、子どもの居場所の確保が必要である、と訴え、探し求めましたが、どこからも支援の手がないどころか、当法人等の方からも、

◎聴覚障害児は数が少ないのだから、都民の税金を使うことには抵抗がありますよ
◎聴覚障害児は自力で行動できるのだから社会福祉の対象ではないでしょう
◎障害が一元化されたのだから、他の障害児施設に入ればよいのでは
◎口話法ができるのだから一般の養護施設でもいいのでは
◎各県のろう学校には寄宿舎があるじゃありませんか
◎国の方策は里親さんに向いていますよ

等々の言葉に出会う状況でした。

そこで、聴覚障害児に対する社会福祉支援の必要性の理解啓発と共に、関係者で新しく『社会福祉法人聴覚障害児の会』を設立し新施設の建設を目指すことになり、その準備に入りました。

愛育苑は、現在入園中で、閉園時期にも学業中のお子さん（保護者）対象に、区切りのよい時期での家庭復帰や転校を勧める対話を始めています。その対話を繰り返して、子どもの行く先を見つけてあげるのが、子どもへの誠意を持った対応だと信じてのことです。

果たしてそうでしょうか。

家庭や地域に事情があり、それに対応する目標や目的を持って入園している、その最良の解決は、現在と同じ様に安心して暮らせる環境を作ってあげることに尽きると思います。それには、別の施設を作り、お子さんたちにそのまま移っていただくことです。

できるだけ早く、その見通しを付けたいと努めていますので、保護者並びにご関係の皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

子どもが中心になって話し合いをする
文章の内容とは直接の関係はありません

金町学園とわが子への思い

在園している子どもの親御さんから

「金町学園が無くなってしまうかもしれない」、そのことについて触れる度に、わが子の表情に現れる陰りとやり場のない不安げな視線、、、。　親として、「大丈夫だよ。そんなことに絶対ならない。」と言ってやりたくとも、言い切ることのできないもどかしさ。

わが子が信州の地から、単身中学生の身で金町学園に入園し、都立のろう学校に通いだして２年が経過しました。彼にとって、最初は当然不安もあったでしょうが、それ以上に希望と期待が大きかったようです。信州の家族との生活や普通学級の学友との交わりが、決して耐え難く窮屈であったわけではない。でも、聴覚障害を持つ身の彼にとって、言葉の壁による孤独と疎外感は否めなかったようです。だから、彼は何よりも仲間が欲しかった。成立しにくい会話でも、辛抱強く待って『聞いて』くれる仲間、そして心許せる友、さらには、普通のおしゃべりを交わせる同輩が身近にいる環境を心から望んでいたのです。そして、自ら進んで東京行きを決めました。

金町学園に在籍してようやくそれが叶い始めた矢先に持ち上がった今回の不安。わが子だけでなく、親としても身をよじるような苦しい思いにさいなまれてしまいます。

どうしてこんな事になってしまうのだろう。

私たち健聴者と同じように、彼ら難聴の障害を持つ人たちも、ただ、友や仲間と居たいだけなのに、どうしてそれを簡単に奪ってしまおうとするのでしょうか。

難聴の人たちと気持ちの通じ合う程の会話手段をもつ健聴者は限られた数しかおりません。難聴の人たちは、そうした人たちのいる場や自分と同じ障害の悩みを持つ人たちの集う場へ出向いてゆくしかないのです。しかし、地方では、そのような人々が多人数集まったり、ましてや同年代近くが多く集うことは難しい状況です。語り合える友や仲間を作ることが、極めて困難なのです。

金町学園は、そんな境遇に悩んでいた子どもたちが、共同で生活し、その子たちをよく知る職員の方々に助けられ、苦楽をも共有できる理想の場なのです。親兄弟姉妹とはまた違う大きな家族の日常生活が営まれている安住の地なのだと思います。ここはまた、学業、成績優先の学校とも違う場であります。

無論、金町学園の子ども達もやがては外の社会へ出て、厳しい風にも当たることとなります。しかし、金町学園の生活で得た仲間や心の安堵を得てから発つのと、それもないまま発ってゆくのとでは大きな違いがあります。

どんな人間でも穏やかに暮らした家族との生活を根っこに持ち、心に抱いて、社会の荒波にもまれ、それを乗り越える原資にしているはずです。難聴の子どもたちにとっての金町学園での生活の記憶は、その人生の内でとても大きな価値として残る、かけがえのない大切な時間なのです。

共同生活のメリットはそれだけではなく、互いを思いやることで、そこから個々の自主性も育つようです。いろいろな性格とかかわることで、周囲との折り合いのつけ方や社交性も成長します。

入園時には、親の目の黒いうちは守り通してやらねばくらいの弱さを覚えてしまうようなわが子でしたが、金町学園での生活2年、目を見張るばかりの逞しさを今では感じます。親のうるさい言葉など無用、一人でやってゆけるさ、的な強さを身につけたようです。

ともあれ、金町学園が一つの家族であるとするならば、その家族が外側の事情によりバラバラにされてしまうなどとは許されることではありえません。まずは家族の一員である子どもたち一人ひとりの顔を見て、声を、意見を、聞いてみてあげてください。

そのうえでも追い立てるような非情な行為ができるのでしょうか。そして、家族からは、出発つ者もいれば、新たに加わる者もあります。金町学園を必要とする子らは後を絶たないのです。

難聴の子どもたちを、本当に親身になって受け入れようと努める場が見つかりにくい今の社会と行政の現状では、金町学園の様な受け皿が是非にも必要なのです。

子ども達のささやかな安らぎにために、金町学園の存続を心からお願い申し上げます。

一緒に楽しみながら成長する

児童指導員　堀口昂誉（聴覚障害者）

私が金町学園で働き始めて一年が過ぎようとしています。

私は学生時代に寮で生活していた経験があります。学校の寮と福祉施設の意味合いは違いますが、ろうの学生が集まり寝食を共にする本質的な部分は同じでした。日本でも数少ないデフコミュニティの中で、手話を通してお互いの言いたいことが伝わる環境は大事であると改めて感じるようになりました。ただ、言いたいことが伝わるからと自分の考えやわがままを一方的に言うだけでは、ケンカやトラブルのもとになってしまいます。自らの考えを伝え、相手の意見も聞く、このような姿勢を持ち、やりとりしていくことが大切であり、その積み重ねが児童たちの成長につながっていくのだと思います。今年度は児童の委員会活動が活発に行われました。生活の中で問題が起きたら、児童の会やそれぞれの委員会で問題提起をし、児童たちに話し合いをさせる活動をくり返してきました。この活動の結果、児童たちなりに解決の方法を考える姿勢が少しずつ身についてきたのではないかと思います。

児童たちは長い時間をかけて成長していくので、すぐには結果の出ない仕事ですが、少しずつ良い方向に成長する児童たちの様子を見ると、この仕事に入って良かったと感動することがあります。

聴覚障害児の夢と希望を実現する新しい学園の設立に向けて

私たちの願いを皆の願いに

「聴覚障害児の会」設立準備会　代表　濵田豊彦

全国で唯一無二とも言える聴覚障害児に対応した福祉型障害児入所施設『金町学園』が、現法人の自己都合で平成３０年３月に閉園されることになりました。

閉園されると、現在入所している子どもたちだけでなく、将来この施設を必要としている子どもたちの行き場所がなくなってしまいます。様々な理由から家庭での養育環境が整わないため、児童相談所が入所を認めた子どもたちが生活しており、事態は逼迫しています。

そこで、土地も資金もない私どもですが、大変な道のりであることは覚悟の上で社会福祉法人を設立し施設を建設することにしました。新学園は、全国の聴覚障害児の社会自立を支援します。

子どもも指導員も全員が手話でコミュニケーションする、子どもたちの心理的な安定や協調性、自立心を育む環境の新学園、これは、全日本ろうあ連盟が推進している「手話言語法」の理念を具体化する場でもあります。どうぞみなさん、新学園建設にご理解とご支援を、そして、共通の願いとしていただきますようお願い申し上げます。

新施設は、社会自立のため全国の聴覚障害児を支援します

手話が公用語です

子どもたちの自由なコミュニケーションを尊重し、手話を中心として、口話、聴覚活用（補聴器、人工内耳）などの特長も生かし、意思疎通をしています。もちろん児童指導員等職員もすべて手話ができます。

学びを支え

大学などの教育機関と連携しながら、聴覚障害の大学院生などの外部スタッフによる、充実した学習支援を行っていきます。

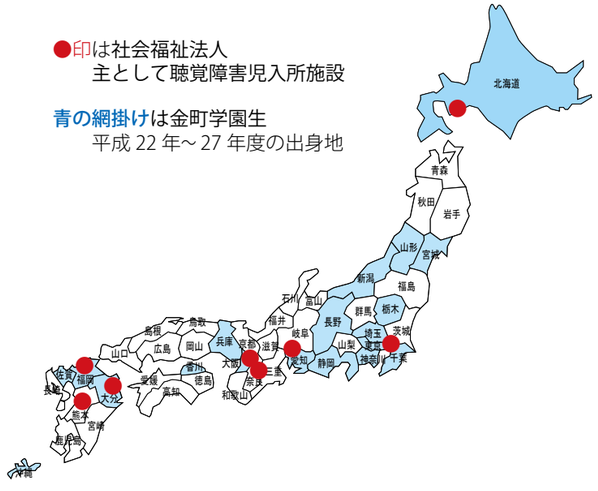
切磋琢磨して未来を拓きます　金町学園での実績

大学進学　筑波技術大学、神戸女学院大学、東洋大学
同朋大学、立正大学、東京成徳大学
専攻科進学　都立ろう学校高等部専攻科
調理師免許取得コース等
職業訓練校進学　東京職業能力開発校
就　　職　ダイハツ自動車、トヨタ自動車、日産自動車
いすず自動車、三菱ふそう自動車、ヤクルト、
東邦薬品、クローンヌ製パン

全国の聴覚障害児が対象です
新施設を必要とする児童は増加傾向

●印は社会福祉法人
主として聴覚障害児入所施設

青の網掛けは金町学園生
平成 22 年～ 27 年度の出身地



多彩で多様な職員がいます

新学園では聴覚障害のある職員を含め、臨床心理士、社会福祉士、特別支援教育の教員免許所持者、手話通訳士などが、指導員、相談員として児童の支援・指導に当たります。

都内、全国どこからでも入園できます

聴覚障害児の夢を実現させるために
金町学園の閉園と同時に、「新しい学園を」都内に建てます
定員 30 名
都内のろう学校で学ぶ
聴覚障害児のための生活の場

次のような方が入園の対象です

●保護者と一緒に生活できない家庭の事情がある場合
・虐待等の問題で社会的養護が必要な場合

●家庭や居住地の環境・教育に不安がある場合
・聴障の友達が近隣におらず、切磋琢磨できる環境が欲しい
・中高一貫教育から大学、調理師や福祉関係の資格取得ができる教育を受け、社会自立を目指したい
・大勢の聴覚障害児と共に、手話が自由に使え、充実したコミュニケーションができる環境で生活をしたい

入所　Q＆A

入園の年齢は

年齢は、３歳から 20 歳まで。

新施設の設立を応援して下さい

福祉型入所施設の設立には社会福祉法人の認可を受けなければならず、そのためには土地と建物の確保が必要です。

聞こえない子どもたちの集える場所の重要性をご理解いただき様々にご支援いただけると幸いです。

寄付を受け付けています

新施設の設立までには総額で６億近くのお金が必要ですが、当面平成 28 年７月までに 7000 万～ 8000 万円を確保する必要があります。

連 絡 先　聴覚障害児の会設立準備会
Tel: 03-5980-8420　Fax: 03-3918-4472
Ｅメール junbikai@roujishien.com
口座番号　みずほ銀行大塚支店　普通２２８０８１３
ゆうちょ銀行１０１４０－９５５２８１３１

入園のためには

●新学園は家庭に代わって生活をし社会自立を目標とする聴覚障害児の社会福祉施設です。
●入園については児童相談所が決定しますが、学園でも相談を受けています。
ろう学校教員経験者等の担当者が対応します。
●見学は、児童が在籍している土曜・日曜・祭日も含め、いつでもできます。